

第2回合同連絡会 情報交換 まとめ

各市町村や関係団体の地域移行の現状や課題、聞きたいことについて

【現 状】第1回からの進捗状況（取組内容・方向性・アイデアなど）

○取組・ビジョン

- ・部活動、地域連携、地域クラブ活動、部活動と地域クラブ活動の併用など、様々な形を、各校で選択して活動できるようにしている。
- ・地域クラブの増加や教員の兼職兼業について検討する。
- ・関係者への連絡・周知に取組み、子どもや保護者の悩みや不安を解消していく。
- ・9月に基本方針を作成し、今年度中に方策を示す。
- ・子どもたちから意見を聴取し、体制を広げていく。
- ・休日の「剣道」「柔道」は地域で活動しているが、その他は、取組が進んでいない。
- ・スポーツ主管課とスポーツ協会が連携して進めている。
- ・現時点では、準備委員会を開催しているが、今後は方針の策定を考えている。
- ・休日の活動を地域へ移行したいと考えている。
- ・地域クラブ活動へ向けての整備や部活動の精選を行うことにより、今後、地域クラブ活動がフェードインしてくる。

○検討委員会等

- ・令和8年度以降の休日の地域移行を設定、審議会を立ち上げたが、様々な意見が乱立し、まとめることが難しい。
 - ・地域移行についての内容が十分浸透できていない会議になり、意見がまとまらなかった。
- 分科会を開催し、内容を理解した上で課題等の意見をもらった方が良い。

○運営団体・実施主体

- ・自治体で全ての部活動の受け皿を作ることは難しい。
- ・総合型地域スポーツクラブや中央公民館を主体として体制づくりを進めたい。
- ・スポーツ少年団等へ、受け皿になってもらえるよう依頼している。
- ・総合型地域スポーツクラブを受け皿として、10月中に検討委員会で協議する。
- ・スポーツ少年団など、小学生のみの受け皿となっているクラブが多いため、中学生の活動も活動できるよう要請している。
- ・スポーツ協会の教室事業へ中学生を受け入れた場合は、受け皿になる。
- ・地域のサッカークラブは競技レベルが高いため、部活動の受け皿になる可能性がある。
- ・スポーツ少年団は、今後、総合型地域スポーツクラブと統合していく構想がある。また、スポーツ庁やスポーツ協会が管理する体制づくりを目指している。

○指導者

- ・教員が関わっていけるかどうか「難しい」という回答が多い。
- ・地域の情熱がある人の協力を仰ぐ。
- ・年内に指導者を募集し、見つからない場合は、職員を想定している。
- ・部活動指導員は、市の中心部に集まりやすい。
- ・部活動指導員を配置している。

○自治体（行政）

- ・多くの部活動がある中、既存のクラブへ受け入れてもらえるかアンケートを実施したが、回答は2割程度だった。
- ・小学4～6年生へ、「現在行っているスポーツを中学校に入ったらどうするか」というアンケートを実施したところ、「部活動に入る」という回答が一定数あった。
- ・クラブ登録や事務手続き等、誰が担当するのか検討する必要がある。
- ・近隣市町の担当者と情報交換会を開催し、先進事例を聴取した。
- ・スポーツ振興協会に対して、「地域移行に協力できるか」のアンケートを実施した。
- ・今後、「楽しくやりたい」「強くなりたい」の両方のニーズを満たすような活動にしていきたい。
- ・現在、予算計上せずに進めている。全て既存の地域クラブがベースとなっているため、受益者負担で進めている。
- ・学校体育館の利用について、行政が仲介役となり学校と調整することで、環境が整ってきた。
- ・組織の改革を行い、特別事業部を設立し、自治体と学校との連携を試みる。

○平日の地域移行

- ・平日の部活動後に地域のクラブと一緒に活動しているため、平日も移行しやすいが、他団体との兼ね合いがある。
- ・休日の地域移行に限定すると、難しい。

○団体等との連携

- ・剣道、柔道は進めやすい。団体の中には、他が進めていない中、自分たちだけが進める必要性を感じていない団体もある。
- ・指導時間や備品の活用等、学校と連携し、情報共有を図ることが大切と考える。
- ・競技団体と調整中である。

○大会の開催・参加等

- ・令和9年度から、競技団体主催の大会開催に向け準備している。
- ・地域クラブで中体連の大会へ出場した。多くの顧問が難しさを感じている。

○その他

- ・エンジョイススポーツ系の活動は、大人を巻き込むことによって、送迎面の課題解決にもなり、一緒に楽しむことができる。
- ・学校の音楽室を地域のバンドが使用し、そこへ中学生が参加する活動や、校舎のカギを地域の方に預けるなど、今後、考え方の転換が必要である。
- ・中3で引退しなくても良い制度設計が必要ではないか。
- ・部活動ではなくなるため、活動時間に縛られなくても良いのではないか。

【課題】今年度解決したい課題、来年度以降の課題・解決方法など

○取組・ビジョン

- ・一つでも多くの地域移行を進めていきたい。
- ・平日は各校で、休日は合同で活動し、今後、地域移行につなげる。
- ・e-sports、ビリヤード、スケートボードなどの活動も取り入れていく。
- ・文化部の地域移行に向けた取組を進めていきたい。
- ・近隣市町との連携も視野に入れていく。
- ・他県の先進事例を参考に取組んでいきたい。
- ・子ども目線を大切にしていきたい。
- ・来年度、モデル校を設定し、平日の移行に取り組んでいきたい。
- ・ゴールイメージや受益者負担の在り方を明確にする。
- ・方針を示していく。

○検討委員会等

- ・意見なし

○運営団体・実施主体

- ・地域移行後のガバナンスを行う団体の人件費等は確保されるのか。
- ・近隣での受益者負担の単価の設定方法を考えていかないといけない。単価が安いクラブへ集まるのではないか。
- ・地域の団体が受け皿となっており、今後、様々な分野の活動を増やしていきたい。
- ・日程調整が困難になっている。

○指導者

- ・専門指導者へ支払う相応の対価をどう設定するか。
- ・謝金ではなく、指導者育成に使ってはどうか。
- ・現金ではなく、地域通貨等で支払ってはどうか。
- ・資格取得について、今後、どう考えていくか。(支援していくか。)
- ・部活動指導員とスポ少の指導者の報酬差をどうしていくか。

○自治体（行政）

- ・団体によって状況が様々なため、意見集約が難しい。
- ・アンケート調査等で、指導者の把握や活動場所の確保に重点を置く。
- ・地域のクラブチームを把握するとともに、広報していく。
- ・民間クラブへ周知していく。
- ・兼職兼業や学校施設の開放に向けた体制づくりをしていく。
- ・子どものニーズの吸い上げが必要ではないか。
- ・地域移行を進めるための、地域のスポーツ・文化・生涯学習の機関が連携できる行政組織が整備できているのか。
- ・隣接（他市町村）クラブへの参加に対する支援も考えないといけないのか。
- ・財政的な問題がある。国や県から継続的な支援をしてもらいたい。
- ・現時点で、全ての活動を地域移行することは困難であるため、部活動の集約をしていく。
- ・トップの考えによって、方向性が変わってしまう。
- ・推進計画の策定が必要となってくる。

○平日の地域移行

- ・令和7年度、平日全ての部活動を地域移行していく。

○団体等との連携

- ・競技団体と調整しているが、組織がしっかりしすぎて調整が難航している。

○大会の開催・参加等

- ・部活動がなくなった場合、中体連・中文連はどうなるのか。
- ・大会やコンクールの在り方・運営について、早く知りたい。
（令和8年度には、何か方針が出るのか？）
- ・今後の大会運営は、参加費や企業からの協賛金を徴収していく。
- ・子どもも運営に携わってはどうか。
- ・公教育の中の活動としては、競技力のみにならないことが重要と考える

○その他

- ・保護者の送迎に対する負担をいかに減らしていくか。
- ・兼職兼業のガイドラインをしっかりと考えるべき。
- ・休日の地域移行にこだわると進めることが難しくなる。
- ・方針や指針、学習指導要領の表記など早期に示してもらいたい。
- ・吹奏楽は「一般・職場」がキーマンになると考える。中・高などの垣根を超えることも考えていかないといけない。
- ・社会に合わせていく動きが必要なため、生涯学習担当部署が方針を出すことも考えてはどうか。